

東海経済レポート

（2020年8月）

～東海経済は移動制限措置の緩和に伴い持ち直しに転じる～

【足元の経済情勢】

- ◇ 東海経済は新型コロナウイルス感染症の影響が依然厳しい状況にあるが、移動制限措置の緩和に伴い 4-5 月を底に持ち直しに転じている。企業部門は、生産及び輸出額が底打ちの兆しをみせている。家計部門でも、小売を中心に個人消費が増加してきている。景気は当面持ち直しを続けると見込まれるが、感染第 2 波への警戒から企業や家計が実施する感染抑止のための取り組みが経済活動の下押し圧力として残るため、底からのリバウンド後の回復ペースは緩やかなものになると考えられる。
- 生産は、6 月の鉱工業生産指数（速報ベース）が前月比+6.6%と 5 ヶ月ぶりに増加した。業種別では、当地域主力の輸送機械は同+15.5%、生産用機械は同+4.7%、電子部品・デバイスは同+7.0%と、多くの業種が前月比プラスに転じている。
 - 設備投資については、1-3 月期の大企業の投資額（確報）が前年比▲2.7%と 4 四半期連続でマイナスとなったが、速報（同▲11.1%）からは上方修正された。製造業が同▲1.6%、非製造業は同▲3.9%の減少となり、全産業ベースの1社当たり投資額は同▲0.5%と微減となっている。金属工作機械の 6 月の国内受注額（当地区主要 8 社）は、前年比▲29.9%と依然二桁台のマイナス推移が続くものの、前月に比べマイナス幅は大きく縮小した。
 - 7 月の輸出額（円ベース）は、前年比▲27.0%と減少が続くも、5 月を底に減少幅は縮小傾向にある。米国向けが同▲23.4%、EU 向けも同▲34.0%と落ち込みが続くが、中国向けは同+11.2%と 3 ヶ月連続で増加した。品目別では、当地域主力の自動車と同▲33.4%、自動車部品も同▲27.0%など、主要品目でマイナスが続いている。
 - 6 月の有効求人倍率は、愛知、岐阜、三重、静岡の 4 県揃って前月比低下した。特に静岡県は 0.96 倍と、2014 年 1 月以来の 1 倍割れとなった。
 - 個人消費関連では、6 月の小売主要 3 業態の販売額が前年比+0.6%と 4 ヶ月ぶりにプラスに転じた。業態別では、コロナ禍による内食需要の増加に伴い、スーパーが同+10.8%と 2 ヶ月連続で二桁台の大幅増（増加自体は 6 ヶ月連続）となった。一方、百貨店は同▲14.7%、コンビニも同▲6.6%と減少が続くが、その減少幅は前月に比べ縮小した。7 月の景気ウォッチャー調査は、現状判断 DI が 39.5 と、水準としては低いものの 3 ヶ月連続で前月から改善し、景気の持ち直しを示唆している。
 - 6 月の住宅着工戸数は年率換算 7.4 万戸、前年比▲23.5%と 2 ヶ月連続で全用途がマイナスとなった。

【生産①】(速報段階)

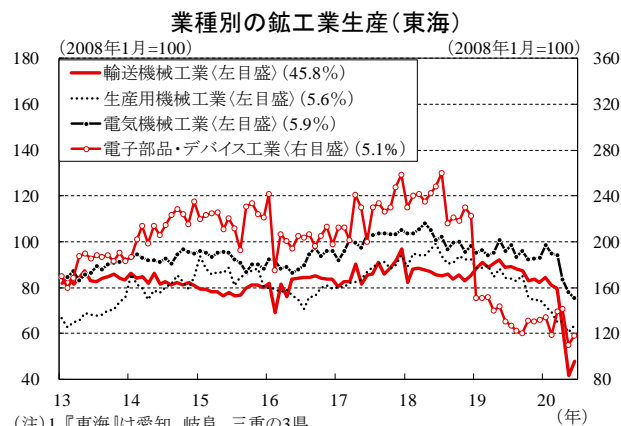
6月の鉱工業生産指数は前月比+6.6%と、5ヵ月ぶりに増加。



(注)『東海』は愛知、岐阜、三重の3県。
(資料)中部経済産業局統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【生産②】(速報段階)

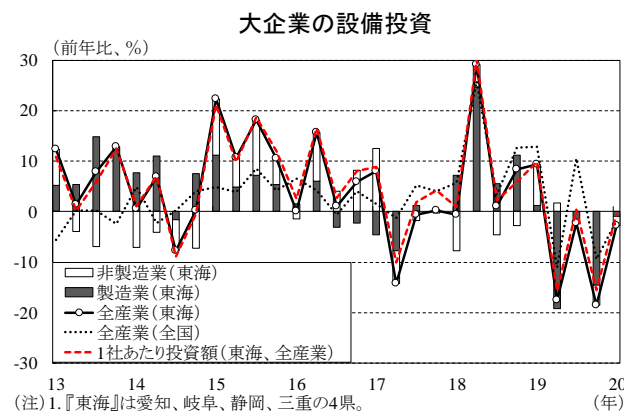
主要品目では、輸送機械、生産用機械、電子部品・デバイスが前月比増産に転化。



(注)1.『東海』は愛知、岐阜、三重の3県。
2.()内の数値は、業種毎の付加価値額の比率(平成27年基準。中部経済産業局算出)
(資料)中部経済産業局統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【設備投資】(確報)

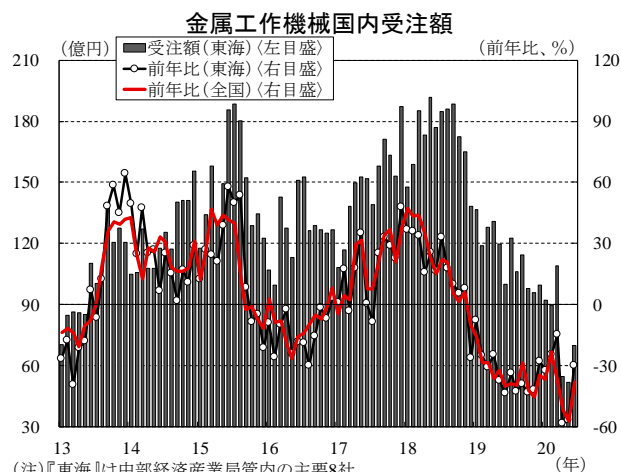
1-3月期の大企業の設備投資は前年比▲2.7%と4半期連続のマイナス。



(注)1.『東海』は愛知、岐阜、静岡、三重の4県。
2.資本金10億円以上の企業を対象。
3.設備投資額はソフトウェアへの投資を除いた金額。
4.1社あたり投資額は設備投資額合計を回答法人数で除して算出
(資料)東海財務局統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【金属工作機械受注(国内)】

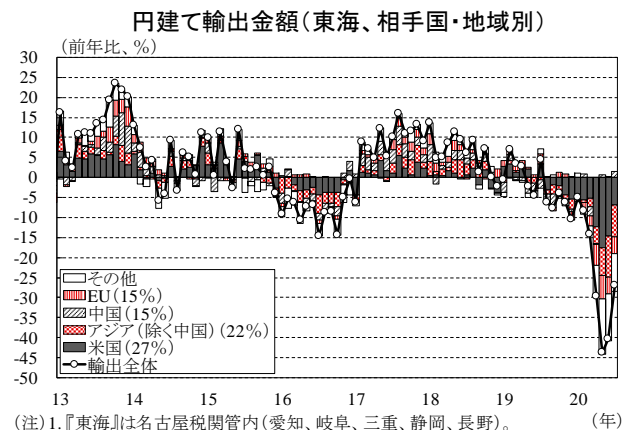
6月の金属工作機械の国内受注額は前年比▲29.9%の減少。前月対比でマイナス幅は縮小。



(注)『東海』は中部経済産業局管内の主要8社。
(資料)中部経済産業局統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【輸出】

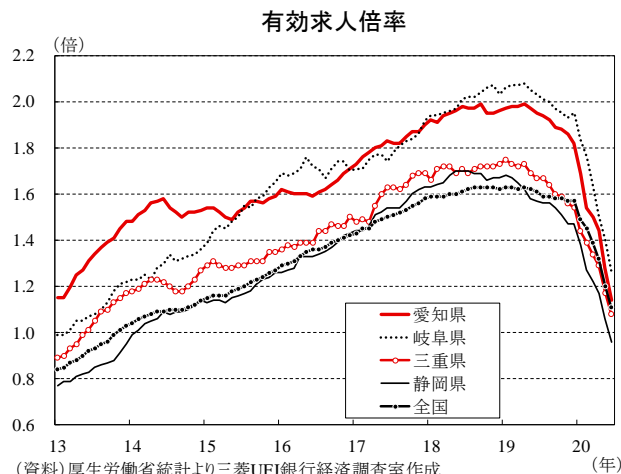
7月の輸出額(円ベース)は前年比▲27.0%とマイナスが続くも、5月を底に減少幅は縮小傾向。



(注)1.『東海』は名古屋税関管内(愛知、岐阜、三重、静岡、長野)。
2.()内の数値は2019年輸出総額に占めるシェア。
3.EUの増減率は加盟国の増減を踏まえて算出。
(資料)名古屋税関統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【雇用】

6月の有効求人倍率は、4県揃って低下。静岡県は2014年1月以来の1倍割れ。

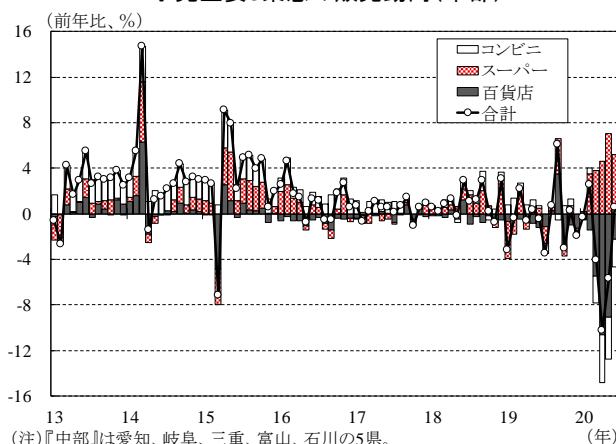


(資料)厚生労働省統計より三菱UFJ銀行経済調査室作成

【個人消費】

6月の小売主要3業態の販売額は前年比+0.6%と、4ヵ月ぶりにプラスに転化。

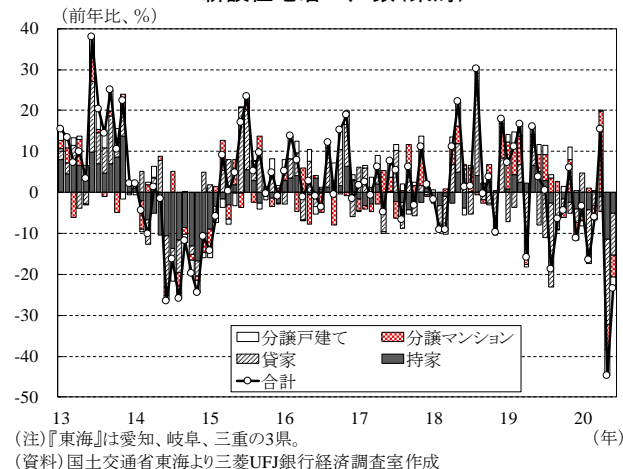
小売主要3業態の販売動向(中部)



【住宅投資】

6月の住宅着工戸数は前年比▲23.5%と、全用途がマイナスとなるのは2ヵ月連続。

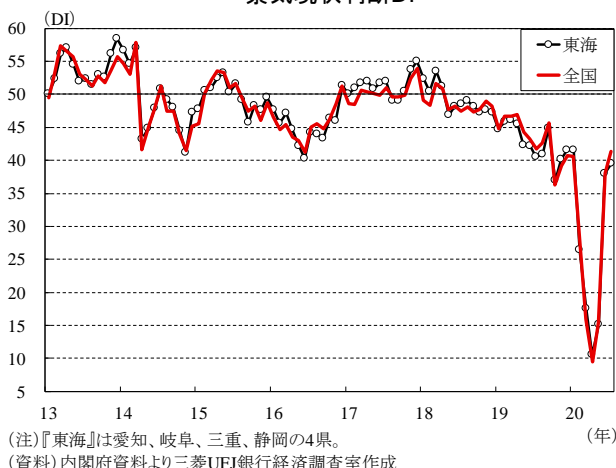
新設住宅着工戸数(東海)



【景気ウォッチャー調査】

7月の現状判断DIは39.5と、水準は依然低いものの3ヵ月連続で改善。

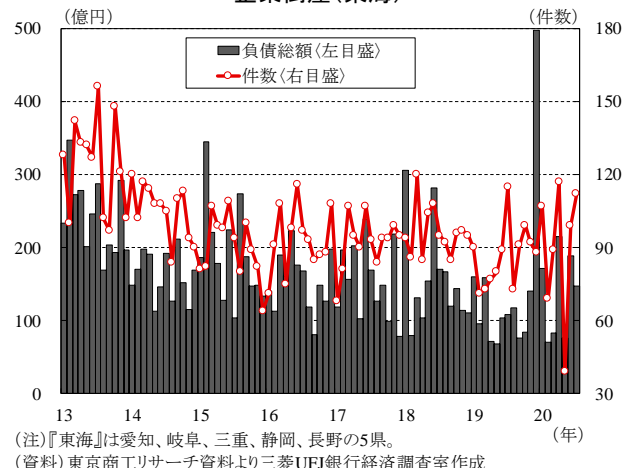
景気現状判断DI



【倒産件数】

7月の企業倒産件数は112件(前年比▲2.6%)と微減も、負債総額は147億円(同+35.6%)と増加。

企業倒産(東海)



【原油価格】

WTIは、世界的な景気持ち直しなどを背景に需給バランスが改善したことから、40ドル台を回復。

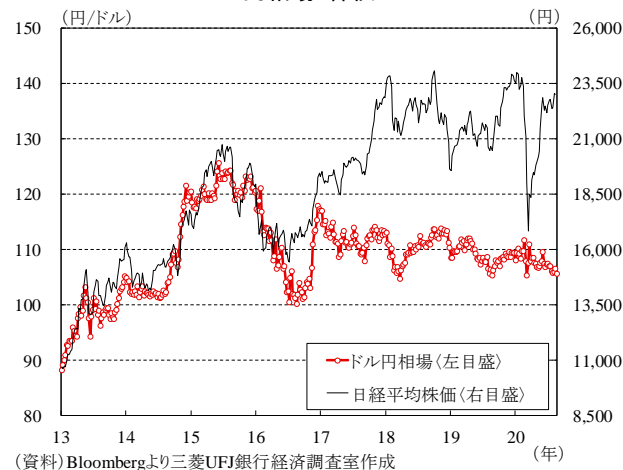
原油価格



【円相場・株価】

日経平均株価は、景気回復への期待から2万3千円台を回復。為替は1ドル106円前後で推移。

円相場・株価



照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室（名古屋）

福田 洋子 youko_2_fukuda@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。